

# 生涯現役 推進委員

## 報告

### 『詩吟研究会』

新山王 哲（防府市）

私たちが机を並べて勉強している「詩吟研究会」は、難しく言えば、漢詩・俳句・和歌・新体詩を吟ずることによって、作者の経験した感激の結論が読まれていますので、それを自分の心に取り入れ、生活の中に生かしていくことができます。

難しい話はそのくらいで、腹の底から大きな声を出すことで自然と複式呼吸になり（お腹の底から声を出さないと喉を痛めます）、健康的でストレスも大いに発散されて身も心も豊かになり、人情や人生の機微に触れることで会員同士の心の触れあいも深まり、人間関係も深まってくるようです。高齢者の生きがいづくり健康づくりには、もっとも適している活動だと思います。

さて、わが教室は会員20名、最高年齢82歳の方が3人で、平均年齢は70歳代ですが、会の雰囲気は澁刺と活気にあふれています。毎週1回夜7時から9時過ぎまで吟詠はもちろんのこと、詩の時代背景、作者の紹介、歴史等の勉強もします。また、春や秋には、名所旧跡等を訪ねることにし

ています。最近、日向の国の若山牧水の生家を訪ねました。

一般に高齢者と言っても各自の体力や健康的な状態、社会的家庭的な問題もからんで個人差は大きいので、趣味・娯楽とは言いながらも対応にはきめ細かい配慮が必要かと思えます。個人差があるということを念頭に置き、会員みんなが楽しく生きがいを感じ、共感を覚えて心の交流ができるよう配慮し、各自にやさしく意欲を持たせることができれば理想的でしょう。それにはひとつにはリーダーの努力と思えます。縁の下の力持ちは大変なことです。



### 「人が輝く」周南市老連」を目指して!

赤星公平（周南市）

4月21日、徳山市、新南陽市、熊毛町、鹿野町が合併し、人口15万8千人の周南市がスタートし、同日、周南市老人クラブ連合会が誕生しました。2市2町の各老人クラブ連合会が合併したのですが、合併に当たっては平成14年8月22日の第1回を皮切りに6回にわたって合併協議会が持たれました。同協議会には県老連からも出席を仰ぎ、色々とご指導をいただきました。そして本年1月16日、2市2町の各老人クラブ連合会の合併調印式が挙行され、晴れて4月21日、周南市老連が第一歩を踏み出しました。

もともと周南地区の各老連では、幹事持ち回りの「老連交流会」が開催されていたので、お互いに親しみがありません。周南市老連の単位クラブは約180、その構成員は約9400人。今までの各老連を支部に組織変更し、徳山・新南陽・熊毛・鹿野の4支部を設置し、現在、会則等の整備、専門部の設置に向けて着々と体制づくりが進行中です。

周南市老連の最初の大きなイベントは10月30日開催予定

の「合併記念ふれあいスポーツ大会（仮称）」です。各支部が一堂に会し、お互いの親睦を深め、実り多い大会になるよう楽しみにしています。

さて、周南市では「元気発信都市」を目指し「生活者を優先するまちづくり」「地域バランスを重視したまちづくり」が本格的に始まっています。われわれ高齢者にもまちづくりに積極的に参加・参画し、老人クラブの持つ活力を生かした活動が期待されています。高齢者がまちづくりに輝くために、周南市老連の役割は極めて大きくなってきました。ぜひとも、「人が輝く：周南市老連」にしたいものです。



## 『長州五傑顕彰碑』

武田 豪（山口市）

2003年は躍進の年であり、ペリー黒船来航150年目、長州留学生5人組（伊藤博文、井上馨、井上勝、遠藤謙助、山尾庸三）英国留学140年目（天保3年1863年5月12日）の記念すべき年であります。

その意義ある年に、山口市秋穂二島の山尾庸三御生家敷地に、長州五傑顕彰碑が建てられ、5月12日に除幕式典が行われました。参加者も多く、百二十余名が参加されました。顕彰碑が建てられた山口市二島地区は、山口市では一番南に位置する所ですが、下関市はじめ県下各地はもろろんのこと、県外からも多数の方が見学においでになつております。



## 『津布田室内ペタンク会』

西山憲一（山陽町）

厚狭郡山陽町の津布田では、毎月3回、午前9時～12時に室内ペタンクの練習を行っています。会員は現在男子5名、女子15名の合計20名。平均年齢は75歳です。

練習では、男女をふくめてくじ引きで3人ずつのチームを何組もつくり、リーグ戦で競技をしています。ペタンクは、投球が上手くなれば逆転が多くなる競技ですので、大逆転で勝った時などには側で見ている人たちからも大歓声が起こります。

このペタンクの面白さを他の高齢者の方々に味わっていただきたく、親睦交流会ができれば楽しさもまた倍増するのではないかと思います。室内ペタンクは天候に左右されないため、大会などが計画通りに実行できます。また、体育館などで開催すれば、大勢の人たちが参加出来ると思います。

現在、私たちの会では、春と秋の年2回、ペタンク大会を行っています。大会の後はいかなる昼食を取り、カラオケ等で親睦を深め、とても楽しく過ごしております。



## 『集まれ！ ニュースポーツ大会』

北村成子（周南市）

「ああ、惜しい」「わあ、すごい！みんな倒れた。ストライクじゃあ！」狭い分館いっぱいには歓声が沸き上がりました。

「老人クラブの会員が減ってきていき、中々増えない」「魅力ある老人クラブ活動の推進を！」等々クラブに寄せられる期待は益々強くなる今日です。そんな中、農村の小さなクラブの女性部で「ニュースポーツを楽しむ会を催したのです。7月の終りの暑い1日、毎月第5火曜日にあるフォークダンスを休んでこの会に当てることにし、誘いあつて40人の会員が集まりました。折角会員の皆さんが出てこ

られたのですから、少しでも楽しく興味が持て、しかも競技心も出るようにと、地区毎に4名1グループの班を作り、班長や記録係もおいてグループ単位で動けるようにしました。「ニュースポーツ」と掲げたものの、内容はボーリングゲーム、クオリティ、リングゲームの3種類。指導者を招くわけではないので、ごく基本的な技術の練習をグループ単位で約1時間とりました。

はじめは、もし転んだりしたら大変だとの心配の声もあがりましたが、実際に練習をしてみると、皆さんゲームの内容に応じて身体を落としたり、跳び上がったりにして得点の高いものに挑戦しておられるようなので、はじめの心配はどこへやら。1時間の練習が終る頃には皆さん要領が良くなられ、嬉々としてゲームを楽しんでおられました。

いよいよ競技。記録係が成績の記録もする競技となると、皆さんやはり元気が出て、会場一杯に熱気が満ちていました。最後にゲーム毎に成績の良かった1、2位に心ばかり賞品をお渡しして、活躍に拍手を送り喜び合いました。

予定通り9時から始まり12時前に終了。適度の運動で適

度の疲労感があり、心地よい半日を過ごすことができませんでした。次回はもう少し技術的に難易度を加えてなど、皆さんの興味や協力、団結の楽しさが増すように工夫して、今後のクラブ活動推進の一助としたいと考えています。

後日、役員さんから、「ニユースポーツの会がとても楽しかったと皆さんから言っていました。私まで嬉しくなりました」と電話を頂きました。皆で作った会だからこそ喜びもひとしおなのです。会の実施にあたって御協力いただいた老人クラブの有志の方から感謝する次第です。



## 『気功体操の会』

川本幸子(下松市)

老人が集まると皆、足腰肩、色々な所が痛い疼くといった話になります。私が老人クラブに入会したのは昭和61年の60歳の時で一番若いと思っていました。もう80歳に手が届くようになり、足腰が痛み

ます。はり、灸、マツサージと色々な所に行きました。中々思うように良くなりません。そんな時、ふと平成7年に中国山東省の老年大学に交流学習に行き、早朝、小雨の中で気功を習ったことを思い出しました。

中国では公園や広場でお年寄りが集まり、太極拳や気功体操をしています。それらはゆっくりと手足を動かすので年寄りに合っているなと思いました。折角中国まで行って勉強したことだから何とかして役に立ちたいと思い、以前公民館行事で教わったことのある先生を思い出し、指導をお願いすることにしました。そんな次第で、現在「生きがい」と「寝たきり老人を作らない」ために、町内の老人集会所で月に2回、御指導を受けています。

先生は若くて優しく、老人に合った教え方をしてください。最初30分ほど基礎をやります。一寸休んでから練功十八法を中国の気功体操のテープに合わせてします。腹式呼吸から始まって、手、足、頭、目、耳、鼻それぞれのツボを教えてください。皆熱心に学んでいます。中国語ですが楽しいです。

一汗かいたところで雑談に

なります。お茶を飲みながら、ドクダミやビワの葉等、近くの雑草での「漢方」談義。何に効く、どうやって作ると話はずきません。

老人の「生きがいづくり」に何かをと思つてはじめて気功体操教室ですが、足の悪い方も「家にじつと居るよりは、ここまで老人車をついて来た方がよい」と参加されています。毎月第1、3月曜の9時半から行つてますので、御興味のある方は参加されたらと思います。ご都合のよい時に出席すればよいということにしていますので、中々全員が揃うことがあります。いつも10人前後の出席者ではありますが、皆で頑張っています。



## 『地域で活動する 装束ボランティアの会』

村岡恒信(岩国市)

「地域の高齢化率は現在25%であるが、10年後には倍になる。今のうちに住民同士が助け合う体制をつくらう」という趣旨で、定年者8名が中心となつて設立されたのが「装束ボランティアの会」です。

平成13年9月1日より活動を開始し、現在では会員も39名となりました。ボランティアの具体的な活動内容は「重いものを動かしたいので手伝つて欲しい」「誰に相談したらよいのか分からないので困つている」「話し相手がほしい」「時々でよいからゴミ出しや病院へ連れて行ってほしい」などです。

勿論こうした活動以外にも、地域の各種グループ(例えば「生き生きサロン」活動など)と連携した活動も行っています。

「話し相手や相談ごと」などは、出来るだけ顔見知りである方がお互いに安心できることから、同じ地区の人が担当(ボランティア)するようにし、個人のプライバシーや人間関係づくりなどにも配慮しています。また、会員の多くは自分の趣味や特技を生かし、

出来ることを無理なく楽しみながら活動しています。

最近では、「ボランティアの会」に対する地域の皆さんの理解も深まり、高齢者や一人暮らしの皆さんにとっては大きな精神的な支えになっているようです。これからは高齢社会の進展に伴い、こうした地域のボランティア活動は、福祉行政の隙間を埋めるものとして、その役割と任務がますます高まるものと考えます。会では現在、活動の活性化と住民同士の助け合う気持ちを一層醸成するための方策として、「地域通貨」の導入を検討中です。



## 『グラウンドゴルフの練習を見て』

小野彰三(光市)

昭和58年に鳥取県で誕生したグラウンドゴルフは、県内

各地で生涯スポーツとして盛んであるが、光市室積地方でも遅ればせながら例外ではない。室積のグラウンドゴルフ同好会が毎週2回練習をしていると聞き、覗いてみた。

7月17日の朝、梅雨の合間の好天に恵まれた日、サン・アビリティーズ光のグラウンドにはもう既に数名の会員がバットの練習に励んでいた。このクラブが出来たのは平成9年元旦。親睦・福祉・健康の増進を目的として、20名のメンバーでスタートした。

地道なクラブ活動を実践、指導してきた前会長のKさんの人柄と統率力に加え、グラウンドゴルフそのものが適度な運動であり、初心者でもすぐにプレーできる身近なスポーツであることに魅せられて、次第次第に同好者は増え、現在では52名の会員も数えるまでに。

最高齢は明治45年生まれ、最年少は昭和18年生まれとかなりの年齢差があるが、年齢を気に留めない仲間である。

ゲーム前のミーティングでは、今年からKさんの後を継いだFさんが先日の大会の結果や今後の大会の予定、本日の注意事項などを説明。会員は皆熱心に聞き入っていた。やがてゲーム開始。30mの

ホールで女性が一打で「トマリ」となった。

聞いてみるとグラウンドゴルフを始めてまだ2年にならず、家事の都合等で練習も半分以上休んでいるという。また別のホールでは、この7月から始めたばかりだという男性がまるでベテランのように堂々と振る舞い、すっかり会の中に溶け込んでいる。これが、誰もが楽しくプレーできる生涯スポーツの魅力であり、所以であると実感した次第である。

「まだまだ他のグループの後からついていくレベルだ」とF会長。真つ黒に日焼けした顔をほころばせて控えめに話して下さった。きびきびした中にも和気藹藹とした雰囲気があり、黙々と練習に打ち込む会員の姿に、近い将来きっと素晴らしい栄光が待ち受けているに違いないと信じながらグラウンドを後にした。



## 『「ゴミ」の会の誕生によせて』

大上里海（岩国市）

今年はシニアグループ協働支援事業が企画され、参加させて頂くことになりました。何一つとりえのない私ですが、皆さんと楽しく交流できたら、と、夢を抱きながら推進員と消費者グループとが手を携えて『ゴミの会』を発足し、歩ませてもらったことにしました。

第1回は、7月24日に省資源の一環として古布で草履を作ることにしました。夏には素足で上履きにするのととても快いと好評のものでした。この取り組みは、粗大ゴミに昔の布団が沢山出されるのを見て「きれいな木綿をこのまま捨てるのはもったいない...何とか利用したい」と思い、考え出したものです。

布で草履を作れば洗うことも出来、長持ちもします。特に病院などで使用すると、足寄りもせず階段でも脱げないのでとてもよいようです。また救急箱に入れておけば、震災の時に素足で飛び出した際に役に立ちます。布を編むことは手先の運動にもなりますし、また編みながら皆さんと「ああでもない、こうで

もない」と笑いながら昔話や世間話に花が咲き、とてもよい交流もできました。

会では、こうしたリサイクル手芸と併せて、悪徳商法の勉強会も行いました。問題の多い悪徳商法は、ますます悪質巧妙化する傾向が見られます。被害を未然に防ぐために、啓発活動に力を入れると共に、消費者一人ひとりが自立精神を養うことが肝要かと思えます。

次回は郷土料理伝承のための料理講習を予定しています。最後に、この会の名称は推進員の野原康子さんが名付けてくださったものです。これからも地道に歩み続けられますよう願っています。



## 『女性頑張る』

小林 進（豊浦町）

私たちの生活は、毎日同じように繰り返しているかに見

えます。毎日が型通りに過ぎて行き、変化なく平凡であると思っていました。いつの間にか衰退していることに気がつきました。私たちの老人会もいつの間にか組織が崩れていたのです。幹部は解散を考え、役員のみ手もなく、新しい会員も増えないと淋しい限りです。

私たちの老人会は、会員数32名。男性14名、女性18名の小さな会です。財政的にも確立していません。諸々の行事もほとんどでした。ところが、女性会員が立ち上がったのです。

会長には男性を選びましたが、副会長と会計は女性、ゲートボールの部長も女性と、幹部が女性中心となりました。そして、まずは自治会が行っていた公会堂の草取りと天神様境内の掃除等を老人会で行うこととし、自治会より3万円の補助金を受け取ることにして活動を始めました。

作業は毎月20日に行うこととしました。すると、その日は多くの人が集まるので、会員の近況を知ることができまします。そんなこんなで毎月20日が楽しみな日になってきて、会には活気が出てきました。まだスタートしたばかりですが、今後も女性の活躍を期待

したいと思いません。

6月には、子供会や自治会の方々と一緒に川棚川の岸辺にコスモスを植え、楽しい1日となりました。



## 『平成デイサービスセンター平田訪問記』

柳沢幹雄（岩国市）

7月26日、梅雨明けの晴天に恵まれた一日、「平成デイサービスセンター平田」よりお招きを受け、歌と踊り、手品など日頃の練習の成果を披露しようと7名の仲間とともにセンターを訪問しました。

センターに来ておられた皆さんは最後まで席を立つことなく、演じる私たちを温かく声援してくださいました。

きつと歌好きの人、歌のうまい人が多くいらつしやるんだろうな、と感じました。私たちの歌は、果たして聴く人の心に届いたのでしょうか。

歌というものは、楽しむためにあるものですが、それだ

けではないと思いません。歌う人や聴く人の心に、やさしい慰めや励ましを与え、時には生きる力も与えます。

「ミュージックセラピー（音楽療法）」でも、歌や音楽は大きな位置を占めていると聞きま

す。音楽は「音を楽しむ」ものであって、「音我苦」であつてはいけないと思えます。

今回、平成デイサービスセンターで声援してくださいました皆さん、これからは歌仲間として「聴く場所」から「歌う場所」へ、それを目標にして一緒に良い歌をいつまでも元気で歌い続けていきませんか。それが私の希望であり、感想です。



## 『どっこいしょで弁当作って17年』

銭谷繁子（小野田市）

「どっこいしょ」がみんなの合言葉。でも、一旦準備に取

りかかると皆その気になって、この頃の手早さ。慣れたものです。

私たちは、小野田市社会福祉協議会のふれあい給食を作っているメンバーです。その会のリーダーが、78歳の私でございます。通称を「老食委員会」と言い、民生委員と福祉員、それにボランティアの3者で構成し、その中から調理担当メンバーが出来ています。半数くらいは17年前の設立当初から関わっている人ですが、世代交代もあり、今は若い人は40代から78歳まで幅広い年齢で調理をしています。

給食の宅配受給者は市内全域、80歳以上のひとり暮らしまたは老夫婦、それに準ずる障害のため食生活に困難を伴う障害者の方々です。登録制で3ヶ月に1回民生委員経由で申込みをし、老食委員会で審査をして宅配となります。高齢化が進み1回に平均14、15人、多いときには20人もの申込があります。

ふれあい給食の献立は、会の最高齢である私の仕事です。できるだけ受給者の喜ばれるものをと心をくばり、味も昔ながらの味にするように配慮しています。また、食品数もたくさん使うよう心がけ、い

つも25種類ぐらいいは入るようになっては、時に若い方にやってみませんかとお声をかけるのですが、皆首を横に降ります。きつと私に対する思いやりだと思つてますが、いつまでも頑張れというメッセージだとも思い、感謝しております。

私のモットーは「ばあちゃんにはナポレオン」。人間は努力と工夫さえすれば、できないことはないというのが口癖です。いつも心に大きな太陽を持ち、怯まずに何にでも挑戦することだと思えます。

とは言いながら、今は膝、足を痛め、杖を共に行動をしております。少し恥づかしいのですが、勇気を出して転ばぬように、廻りの皆様に支えられながら「どっこいしょ」で生きられる日まで頑張りたいたいと思います。人生はこれからです。



## 『生涯現役をめざして』

石村 勉（山陽町）

平成15年6月26日、第39回山陽町老人クラブ大会を山陽町文化会館にて開催しました。国沢町長はじめ来賓の御隣席をいただき、山口県老人憲章の朗読を行った後、村おこし町おこし運動通年継続事項4項目「健康な心と体をつくる運動の実施」「仲間づくり活動事業の実践」「地域活動事業の実践」「交通安全事故防止運動の実践」の決議を行いました。続いて、多年に亘り老人クラブ活動のために御尽力を戴いた方々の功労表彰や来賓の祝辞等をいただきました。閉会しました。

閉会後は、厚狭警察署交通課と交通安全協会職員の方からの交通安全事故防止教室を実施しました。これは、山陽町は交通事故が大変に多く、その3割以上が高齢者に関する被害だということで行われたもので、夜間歩行者、自転車、シルバードライバーに関する指導をお話とクイズで行いました。

続いて、大谷康彦氏を講師に迎え、『人生はいつも青空』と題したご講演を行いました。講演の内容は大変楽しく役立つもので、時間がたつのも忘

れて大いに笑い、聞き入りました。「いつまでも現役で」と今後高齢者が生きる道に明るい青空を与えてくださるような講演でした。

最後は、日本舞踊と老人クラブ女性部の社交ダンスという、今後の老人クラブ活動に大きな転換を与えてくれるような大変立派なアトラクションで幕を閉じました。

これからも社会のお役に立つように、特に男女共同参画に力を入れながら、老人クラブ活動に努力していきたいと思えます。



## 『健康づくりと地元交流』

桜井英雄（豊浦町）

豊浦町老連のスポーツ活動の中では、平成元年に始めたグラウンドゴルフの参加者が一番多く、地元のグラウンドにて日曜を除く毎日午前中に

練習を行っています。

また、グラウンドゴルフに参加の方から「卓球をした」という申し出があり、平成3年に卓球同好会を作った6名で公民館の軽運動場で活動を始めたところ、地元の方からの参加申し込みが増え、今では週に2回、18名にて練習に汗を流しています。他にも3ヶ所ほど同好会が出来て、老連の会員外の方も3分の1くらいおられます。最高齢は81歳の方で、毎回元気に参加しておられます。

趣味の会の方では、カラオケ同好会を平成12年に作り、週2回、地元公民館にて楽しく練習しています。今では参加者が発会時の倍に増え、老連会員外の参加者も増えつつあり、現在は会員と一般の方が半々くらいになっています。



## 『小さな呼びかけで出来た小さな親切グループ』

上原達夫（美祿市）

「病院に行きたい」と、弱者の叫び。高齢者や病弱者、また障害をもった人など心身の状況等により一人で交通機関を日常的に利用することが非常に困難な方々の叫びである。

このような交通弱者の足として、日常生活での移動を支える目的で利便を図るとともに、社会参加の促進と福祉の向上に寄与する、市民参加の小さなボランティアグループの小さな親切の事例を紹介したい。

平成13年1月、美祿市ボランティア奉仕活動センターの外出支援運転代行ボランティア講習会開催に関する呼びかけがきっかけとなり、これに呼応した見知らぬ者同士の市民8名が講習会に参加。講習会終了後、8名全員が「運転協力ボランティア」に志願した。

同年2月1日、会の名称を「輪だちの会みね」とし、活動をスタート。美祿市に新しいボランティアグループが一つ誕生した。この年の冬は大変寒さが厳しく、またよく雪が

降った。降った雪が溶けずに町中どこに行っても轍だらけで轍が目についた。そこで、グループの名称も当初「轍の会」としていたが、一寸難しい漢字なのでそれだけの人が読んでもらえるのか心配となり、検討の結果、「福祉の輪づくり運動」の「輪」の字を当てて、「輪だちの会みね」としたのである。

そのグループ結成以来、無事故・無違反で3年目。平成13年度394名だった移送実績は、平成14年度は530名と利用者が大幅に増えた。またグループ結成時には8名だった会員数も、現在では17名に増え、人間味にあふれる頼れるグループに成長したと誇りを持っている。活動は決して楽ではないが、ボランティアから得られる爽快感と目的達成の満足感は素晴らしい。これかれも安全と安心を胸に、すばらしい明日を信じて更なる継続を考えている。



## 『親子の料理教室』

大江照枝（防府市）

7月29日、華城公民館にて親子の料理教室が開かれました。

この行事は20年前から続いているそうで、毎年夏休みになると、子どもたちの思いでづくり、そして子どもたちに食の大切さを学んでもらおうとの発案で始まったとのこと。

午前9時の開始時間前には、おばあちゃんやお母さん、それに子どもたちが集まってきました。この日の参加者は、子ども21名、母親20名、それにおばあちゃん5名の計46名でした。

女の子はファッションも可愛らしく、おしゃべりしながら手も動いています。ある男の子は、無理に連れてこられたと愚痴を言っていました。本番では結構楽しそうにしています。「男の子にも料理を作る大変さを少しでも分かってほしい」と、お母さんの一人は話しておられました。おばあちゃんに優しくタマネギの切り方を習っていた男の子は、目に涙をためながら悪戦苦闘して挑戦していました。「失礼ですが」とおばあちゃんに年齢を尋ねますと70歳だと言われます。子どもと

一緒に料理を作ることを楽しみに毎年参加しておられるとのこと。さすがに若々しい方でした。

老若男女、一緒に一つのことに取り組んでいる姿を見ますと、地域での子育てというイメージがひしひしと伝わってきました。

ご協力いただいた華城地区の方に感謝いたします。



## 『生涯現役社会 づくりを指向して』

白澤忠幸(防府市)

このままでは老人クラブは魅力を失って衰退は避け得ない。そこで、これが歯止めと活性化へ向けた模索の第一歩の新しい口火を切った。

防府市佐波地区開出長寿会では、次第に先細りしない活動の肉付けと広がり、一層の質的充実を望んで意欲的な動きをしている。

発端は、自らの意思で長らく地道に奉仕を続けてきていた隠れた存在の皆さんであつ

た。その後、続く有志を募ってグループ毎にまとめ、組織を発足。単なる評論や傍観者にとどまらず、勇み足でもいいので先ずは小さくても足元のことから手をつけていこうと、頼もしい新生の雰囲気が集団が結成された。

現在、グループは4部門に分かれて活動を行っている。

1 緑道(通学路)の愛護活動  
2 老人憩いの家の花壇の管理、  
3 老人憩いの家の剪定、4 家族ぐるみ、老若男女、初心者や学童を含むペタンク、の4つである。

各グループの方針や活動要項は部門別会議で決められており、実際の活動は試行錯誤の繰り返しである。活動のねらいとしては、地域おこしや元気なまちづくりにはじまり、お互いの啓蒙活動や友好を深めること等であるが、地域活性化に向けて和気霽々で元気で楽しい集いとなるよう、趣意を徹底し、自己喚起へ発信中である。

地域の砂漠化や人心の荒廃など、地域に根づいた大切に育て守り伝えていかなければならない良い伝統までも、疎かにあしらわれがちな昨今、人情の機微の薄れを心淋しく、もどかしさを覚える。

新年度、新たに手がけた小

さな動きとはいえ、確かな手応えを感じている。いい足跡を残せるグループとして存在感の発揮に努め、自然体で焦らず、急がず、肩ひじ張らずにみんなの手を携えて、より良い明日を夢見て大事に積み重ね、これからの展開を楽しみにしている。



## 『楽しみながらボラン ティア活動』

林 京子(玖珂町)

山口県東部に位置する玖珂町では、町の基本構想である「町民の意思と行動による町民の町づくり」を精神の根底とし、青少年の健全育成を願って地域の問題を足元から見直し、世代を越えた住民の交流が図られています。

その交流活動の一端を担う「玖珂町ボランティア協議会」に所属し、私たちのグループ

もボランティアでのパネルシアター活動を行っています。

私たちのグループには様々な価値観を持つ様々な年齢階層の人が所属し、仲間同士の交流の中でパネルを製作していきます。

製作の過程では、時には台本通りにいかない場面に出会うこともあります。しかしそのような時、異年齢の集団の良さが発揮されます。

各自が特技、趣味、経験などを生かしてそれぞれに応じた役割を分担し、一人ひとりが責任をもって無理のないように焦らず、楽しみながら製作していくのです。完成した作品は、実に美しく纏まっていて、仲間と共に人知れぬ喜びを分かちあうことが出来ま

す。そうして製作した作品の中には、ボランティア活動に参加してくれた小・中学生や、グレードアップ事業の福祉の部を選択してくれた玖珂中の生徒達と共同製作したものもあります。この生徒たちの心を大切にしながら、学校や施設などでパネルシアターを発表し、皆さんに喜んでいただいています。

グループが発足してはや12年。反省点も多々ありますが、依頼を受けて出かけて行く幼

稚園や小学校、身体障害者親子の集い大会、子ども文化祭等々で、皆さんにできるだけ喜んでいただける作品をと今はブラックシアターに傾注しているところ です。

私がボランティア活動を通して思うことは、ボランティアはふれあいの中で「いつも」「どこでも」「誰にでも」出来るものだということ。そして共に生きる社会を住みよくすることの大切さも、活動を通して学んでいます。

